

トキコエニユースレター

Vol.1 ― 2026年 春号

発行：Pearl Memorial）運営：Universal Need 株式会社（発行日
：2026年4月1日 発行人：佐藤拓也・佐藤美菜

目次

・巻頭言「境界線から――はじまりの春に・創刊特集：なぜ私たちはこれをやるのか――ラハイナからの出発・ソウルキャリア便り――ある帰郷の記録：K家の物語・トキストレージ通信――石英に刻む、伊勢への道・バウンダリストの窓――」該当なし「の人々・トキコエの台所――スパムむすび、境界線上の味・お知らせ――パトロンプログラム・次号予告・編集後記・英文要旨）English Summary（・奥付

巻頭言「境界線から」

はじまりの春に

マウイの風は、いつも何かを運んでくる。2023年8月
ラハイナ）Lahaina（を襲った炎は、かつてハワイ王国の首都
だった町を一夜で灰にした。150年のバニヤンツリーは黒
く焼け、100人を超える命が失われた。私たちの暮らして
いたトレイラーもその渦中にあった。あの夏、マリア・ラ
ナキラ・カトリック教会）Maria Lanakila Catholic Church（――ラハ
イナで唯一、炎をくぐり抜けた教会――で出会った人たちが
いた。」あなたたちの事情は聞かない。ただ、ここにいていい
「と言ってくれた人たちだ。在留資格も住所も問われなかつ
た。制度の内側にいて、その限界を知っている人たちの手が
、制度の外にいた私たちに差し伸べられた。あれから3年
。私たちは「境界線を越える」「ことを仕事にした。故郷に
帰れなかった人の遺骨を届ける。存在の記憶を合成石英に刻
み、1000年先に届ける。そして今、こうして言葉を刊行物

として残すことを始める。この冊子の1部は、国立国会図書館に届けられる。あなたが今読んでいるこの文章は、日本の公的アーカイブに半永久的に保存される。あなたがこの1頁をめくったという事実もまた、この冊子がこの存在した証拠になる。」誰かがここにいた「ことを残す——それが私たちの仕事であり、このニュースレターそのものが、その実践のひとつだ。春はじまりの季節に、最初の1頁を。佐藤拓也

創刊特集：なぜ私たちはこれをやるのか ——ラハイナからの出発

1. コンサルティングファームを辞めた日

2023年8月8日。猛烈な風にあおられた炎がラハイナの町を飲み込んだ。ニュースを、私は東京のオフィスで見ている。当時、私はデロイトトーマツコンサルティングのシニアマネージャーとして、金融機関のDX戦略やスマートシティOSの設計に携わっていた。27年間、15歳から技術の世界にいた。東京高専を卒業し、富士通で官公庁システムを手がけ、ウィルゲートでは取締役CTOとして会社を50倍に成長させた。4000人以上にトレーニングを提供し、200人以上のエンジニア組織をゼロから立ち上げた。その経験をもって、マウイの復興支援に行きたいと申し込んだ。魂の救済「のため」の出張を認めてほしいと。答えは「就業規則上認められない」だった。2025年、私は退職した。妻の美菜、5歳の娘の糸とともにマウイに渡った。貯金とクレジットカードの借入を、復興支援の経費に充てた。

2. オフグリッドの実践

マウイでの最初の仕事は、2023年の火災で被災した農場周辺でのオフグリッド・インフラ構築だった。ハナ（Hana）の農場にソーラーパネルとバッテリーシステムを設計・設置した。ホノルア湾（Honolulu Bay）の農場では、大規模なオフグリッド構築のテクニカルリードを務めた。電気配線の診

断と修理、衛星通信）Starlink（のセットアップ、発電機のメンテナンス。グリッドが落ちても72時間以上の連続稼働が可能な体制を整えた。これらの技術は、千葉県浦安市の自宅でもテストしていた。太陽光パネルとバッテリーで烏骨鶏の鶏舎に電力を供給し、エネルギー自立の実証実験を日常の中で続けていた。技術を他者に提供する前に、まず自分たちの暮らしで検証する。それが私たちのやり方だ。

3. 教会との出会い

2025年12月21日。その日は二つのことが同時に起きた。娘の糸が高熱を出した。同じ日、私たちが暮らしていたトレーラーの売却話が持ち上がった。住む場所を失う瀬戸際だった。助けを求めて訪れた教会でRさんという日系アメリカ人と出会った。Rさんの母は日本人で、「日本人の縁」が私たちをつないだ。マリア・ラナキラ教会は、2025年12月24日に正式な宿泊支援の合意書に署名してくれた。在留資格を聞かれなかった。住所を聞かれなかった。就労許可を聞かれなかった。「ここにいていい」「——それだけだった。

4. 三つの事業が生まれた理由

この一連の経験から、三つの事業が生まれた。ソウルキャリア（Soul Carrier（——ハワイには日系人が18万人以上いる80年以上にわたって日本との接点を失った家族がいる。」。いつか帰る」と言い続けて帰れなかった人たちの遺骨を、故郷の墓に届ける。費用は全額スポンサーが負担し、家族の負担はゼロ。トキストレージ（Toki Storage（——合成石英にレーザーで情報を刻む。紙は数百年で朽ち、サーバーは電源が切れれば消える。だが石英（SiO₂）は1000度の高温にも耐え、理論上300万年以上の情報保持が可能だ）日立製作所・京都大学、2012年（「存在の証明」を物理的に永遠させる。バウンダリスト・ムーブメント——制度の境界線上に立つ人々の記録と連帯。教会での経験が教えてくれたのは、「制度の外にいる人」と「制度の内側でその限界を見ている人」が出会うとき、境界線が消えるということだった

。このニュースレターはその三つの事業を横断する記録媒体であり、それ自体が「存在の証明」の実践である。国会図書館に収蔵された瞬間、この冊子は制度の中に入る。境界線を越えて。

ソウルキャリア便り

ある帰郷の記録——K家の物語

※ご本人の書面による許諾を得て、氏名をイニシャル、居住地を州レベルで掲載しています。カリフォルニア州に暮らすKさん（70代）から最初の連絡をいただいたのは、2025年秋のことでした。「父の遺骨の一部を、祖父の墓がある九州に届けたい」「Kさんの父は1940年代にハワイから米国本土に渡り、そのまま日本に戻ることはありませんでした。90歳で亡くなるまで」「いつか帰る」と言い続けていたそうです。Kさん自身は父の故郷を一度も訪れたことがなく、祖父の墓がどこにあるのかも正確にはわからない、とのことでした。

戸籍と墓地の調査

ソウルキャリアでは、まず戸籍（*hoseki*）（の調査から始めます。Kさんの父の出生地をもとに、該当する市町村の役場に戸籍謄本の交付を請求しました。戦前の除籍簿が保存されており、祖父の本籍地と、墓地を管理する寺院の手がかりが見つかりました。寺院への電話連絡では、住職が過去帳を確認してくださいました。「この名前なら覚えがある。古い区画にあるはずだ」という言葉にKさんは電話越しに声を詰まらせていました。

九州への旅

2026年2月、私たちはKさんとともに九州を訪れました。墓地に着いたのは曇り空の朝でした。苔に覆われた墓石にKさんの祖父の名前がかるうじて読み取れました。私たちは墓石の清掃を行い、周囲の雑草を取り除きました。Kさんは父の遺骨の一部を納め、手を合わせました。「父は帰ってきました。ありがとうございます。」住職は改めて供養の読経

をあげてくださいました。読経の後、住職が言った言葉が印象的でした。『海の向こうで待っていた方がおられたのですね。墓は待っていてくれますから。』

ソウルキャリアの手続き

遺骨の国際輸送には、州の保健局が発行する火葬証明書（Cremation Certificate）（日本の在外公館で取得する認証書類、航空会社への事前申告が必要です。ソウルキャリアではこれらの書類手続きを一括で支援し、遺骨は航空貨物ではなく、必ず人の手で——つまり私たちが機内に持ち込む形で——お届けしています。この春、新たに3件の帰郷のご依頼をいただいています。1件ずつ、調査から始めます。

トキストレージ通信

石英に刻む、伊勢への道

伊勢神宮への奉納準備

2026年中に予定している伊勢神宮への正式奉納に向けて、奉納品の制作が進んでいます。奉納するクォーツガラスには、ソウルキャリアがこれまでにお手伝いした帰郷の記録——匿名化された依頼者の情報、訪問した寺院・墓地、帰郷の日付——が刻まれます。同時に、このニュースレター創刊号の全文も刻印される予定です。石英の中に、紙の記録が入る。入れ子構造の存在証明です。延暦寺・比叡山（への奉納も同年中に予定しており、こちらには別の記録セットが刻まれます。

技術ノート：なぜ石英なのか

トキストレージの技術的基盤について、改めて整理します。素材…合成石英（SiO₂）（天然水晶と同じ化学組成だが、不純物を極限まで排除して製造される工業用素材。半導体製造のフォトマスク基板などに使われるものと同等の品質。記録方法…フェムト秒レーザーによりガラス内部にナノスケールの構造変化を形成する。表面への刻印ではなく、ガラスの「内部」に情報が存在する。耐久性の根拠…2012年、日立製作所と京都大学の共同研究チームが、石英ガラス

へのレーザー記録による超長期データ保存を実証。理論上の保存期間は3億年以上。・MicrosoftのProject Silicaも同様の石英ガラスデータストレージを開発中。・石英は1000度の高温に耐え、酸やアルカリにも高い耐性を持つ。墓石）花崗岩（の耐用年数が100〜200年であるのに対し、桁違いの安定性を持つ。QRコードによるアクセス・クォーツガラスの表面にはQRコードも刻まれており、スマートフォンで読み取ると故人のデジタルメモリアルバムページにアクセスできます。サーバーが停止した場合に備え、ガラス内部にはQRコードが参照するデータ自体も記録されています。パールソープとの連携

ソウルキャリアの活動で出会った方々に、手作りの肉球型石鹼「パールソープ」をお渡ししています。これは2025年に18歳で亡くなった家族犬パール（Pearl）を偲んで作り始めたもので、ゴコナッツの香りの石鹼です。マウイで130個以上を手渡しました。石鹼は使えば溶けてなくなる。でも石英に刻んだ記憶は1000年残る。消えるものと残るもの。その対比が、私たちの活動を象徴しています。

バウンダリストの窓

「該当なし」の人々

バウンダリスト（boundarist）という言葉を、私たちは造語として使っている。境界線（boundary）上に立つ人。制度の外にいる人と、制度の内側にいてその限界を見ている人。その両方を指す言葉だ。

ふたつのバウンダリスト

外側のバウンダリスト…住所を失った人。仕事を失った人。在留資格のない人。行政の窓口で「該当なし」と言われた人。日本にもアメリカにも、制度の前提条件を満たさないために「存在しないことになっている人」がいる。内側のバウンダリスト…窓口の向こう側で「規則ですから」と言わざるを得ない人。制度のなかにいて、その不備を日々目にしている人。個人の判断で例外を認める権限がなく、しかし目

の前の人が困っていることはわかってる人。私たちの経験では、境界線が消えるのはこの二種類のバウンダリストが出会ったときだ。

マリア・ラナキラ教会で起きたこと

2025年12月、私たちが住居を失いかけたとき、教会は在留資格も住所も就労許可も問わずに受け入れてくれた。これは「善意」の話ではない。教会という制度の内部にいる人たちが、制度の限界を理解したうえで、自らの判断で行動したということだ。通常、アメリカで住居支援を受けるにはソーシャル・セキュリティ・ナンバーや在留資格の確認が必要になる。公的な支援制度では「該当なし」になる条件を、私たちは複数満たしていた。教会は公的制度ではない。だからこそ、制度の隙間にいる人を受け止めることができた。
存在証明の民主化

この経験を通じて考えるようになったのが「存在証明の民主化」という課題だ。戸籍、住民票、社会保障番号——制度的な存在証明は、制度の内側にいる人にしか発行されない。では、制度の外にいる人の存在はどうやって証明されるのか。ソウルキャリアが遺骨を届けるとき、私たちは「この人はここにいた」という事実を物理的に証明している。トキストレージが石英に記録を刻むとき、制度に依存しない形で存在を未来に届けている。そしてこのニュースレターが国会図書館に収蔵されるとき、その記録は制度の中に入る。制度の外から中へ。境界線を越えて存在を届ける。これが、私たちが考える「存在証明の民主化」の実践だ。

読者への問いかけ


あなたは、行政の窓口で「該当なし」と言われた経験がありますか？ あるいは、窓口の向こう側で「規則ですから」と言わざるを得なかった経験は？ 「境界線」にまつわるあなたの経験を聞かせてください。次号以降の「読者の声」欄に掲載させていただく場合があります。寄稿・投書は編集部メールアドレスまで。

トキコエの台所

スパムむすび——境界線上の味

ハワイのコンビニやガソリンスタンドに行くと、レジの横に必ず並んでいるのがスパムむすびだ。日本のおにぎりやアメリカのスパム缶詰が出会って生まれた食べ物で、ハワイの日系移民の歴史がそのまま形になっている。スパムむすびの起源は第二次世界大戦中に遡る。米軍の軍用食だったスパム缶がハワイに大量に持ち込まれ、日系人がそれをごはんと海苔で包んだ。占領者の食べ物と被占領者の食べ物が混ざり合い、どちらのものでもない新しい食べ物が生まれた。境界線上の味だ。2023年8月のラハイナの火事の後、避難所で最初に配られた食事のひとつもスパムむすびだった。電気もガスも止まった中でごはんを炊いて、スパムを焼いて、海苔で巻く。材料が三つあれば作れる。災害時の食として、これほど合理的なものはない。

レシピ）4 個分（

材料・ごはん…合分）少し固めに炊く。酢飯にしてもよい（・スパム）SPAM Classic（：1缶）340g（から4枚を切り出す・焼きのり…全形2枚を縦半分に切って4枚にする・醤油…大さじ1・みりん…大さじ1・砂糖…小さじ1作り方 1・スパムを缶の短辺方向に「」厚に切る。缶は型として取っておく。2・フライパンに油を引かずにスパムを並べ、中火で両面をこんがり焼く。脂が十分出る。3・醤油・みりん・砂糖を合わせたタレを回しかけ、軽く煮詰めながら絡める。4・スパム缶の内側にラップを敷き、ごはん→スパム→ごはんの順に詰め、ラップごと押し出す。5・海苔の中央にむすびを置き、底を通して反対側まで巻く。海苔の端ごはんの水分で留める。マウイの風に吹かれながら食べるのが一番うまいが、東京の公園でも、九州の墓地でも、スパムむすびは場所を選ばない。境界線を越える食べ物だから。

お知らせ

パトロンプログラム

トキコエニュースレターの印刷版は、パトロンの皆さまに
毎号お届けしています。全てのパトロンの名前は、トキスト
レージのクォーツガラスに永久に刻まれます。パトロン特典
Visionary）\$100,000 ～（印刷版毎号送付 + 名前掲載 + 年間報告書 + Webサ
イト掲載 Builder）\$4,000 ～（印刷版毎号送付 + 名前掲載 Starter）\$500 ～（
Pdf版 + 名前掲載 詳細・お申し込み
：<https://calendly.com/pearlmemorial/pearlmemorialsession>）無料相談（

寄稿のお願い

「境界線」にまつわる経験——制度の外に立った経験、あ
るいは制度の内側からその限界を見た経験——を聞かせて
ください。800字以内で、編集部宛にお送りください。次号
以降「読者の声」欄に掲載させていただく場合があります
。連絡先：business@atotakuya.jp

次号予告

Vol.2 — 2026年 夏号 — 2026年7月1日発行予定
（特集：レジリエンス——マウイ島火災から3年 20
23年8月のマウイ島火災から3年。復興の現在地を、オフ
グリッド・インフラの構築記録とともに報告します。被災農
場でのソーラーシステム設置の技術的記録、マリア・ラナキ
ラ教会の現在そして新たな帰郷の物語。

編集後記

創刊号をお届けします。正直に書くと、「ニュースレター
を出す」と決めてから、何度も手が止まりました。私たちの
活動はまだ始まったばかりで、報告すべき実績は多くありま
せん。」もう少し実績ができてから「と思う気持ちがありま
した。でも」実績ができてから記録を始める「というの
は順番が逆だと気づきました。記録は、実績の前に始めるも
のです。始まりの時点から記録があるからこそ、後から振り
返ったとき、道程がわかる。この冊子が国会図書館に届い
たとき、書架のどこかに「Vol.1」として並ぶ。まだ何者でもな

い私たちの最初の1歩が、制度的に保存される。それ自体が存在の証明です。縦書きの組版は、Pythonスク립トで1文字ずつ配置する方法で実現しました。活版印刷には到底及びませんが、手作りの痕跡もまたこの冊子の記録の一部だと思っています。次号は夏号7月発行予定です。佐藤美菜

English Summary

Tokikoe Newsletter is a quarterly publication by Pearl Memorial, covering three interconnected initiatives
This inaugural issue features the founding story of Pearl Memorial —

from the 2023 Lahaina wildfire through off-grid infrastructure work in Maui to the establishment of three
Each issue is deposited with the National Diet Library of Japan, creating a permanent institutional archive
Contact: business@satotakuya.jp Web: <https://bit.ly/pearlmemorial>

奥付

誌名 トキコエニュースレター / Tokikoe Newsletter 巻号 第1巻 第1号) 通
巻1号 (2026年春号 発行日 2026年4月1日 発行 Pearl Memorial 運
営 Universal Need 株式会社 発行人 佐藤拓也・佐藤美菜 編集 佐藤拓也・佐藤
美菜 発行所 〒279-0014 千葉県浦安市明海 2-11-13) 2026年春より新潟
県佐渡市河原田本町に移転予定 (海外拠点 Maui, Hawaii, USA 連絡先
business@satotakuya.jp ウェブ <https://bit.ly/pearlmemorial> 印刷) 印刷所名——入稿時
に記載 (頒価 非売品 ISSN 申請予定) 第2号発行時に取得見込み (—
本誌は国立国会図書館法第24条に基づき、国立国会図書館に
納本しています。本誌に掲載された記事の著作権は各執筆
者に帰属します。無断転載を禁じます。◎

2026 Pearl Memorial / Universal Need 株式会社

Crossing boundaries through resonance. 共鳴で、境界線を越える。次号は
Vol.2 2026 年夏号) 7 月発行予定 (です。